

@Lib

「都市横浜の記憶」で幕末・明治の横浜を偲ぶ p. 1

講座・講演会／展示／子ども向けイベント p. 2～3

@Libミニブックリスト(27)「図書館が舞台の本」 p. 4

図書特別整理日のお知らせ p. 4

ホームページ

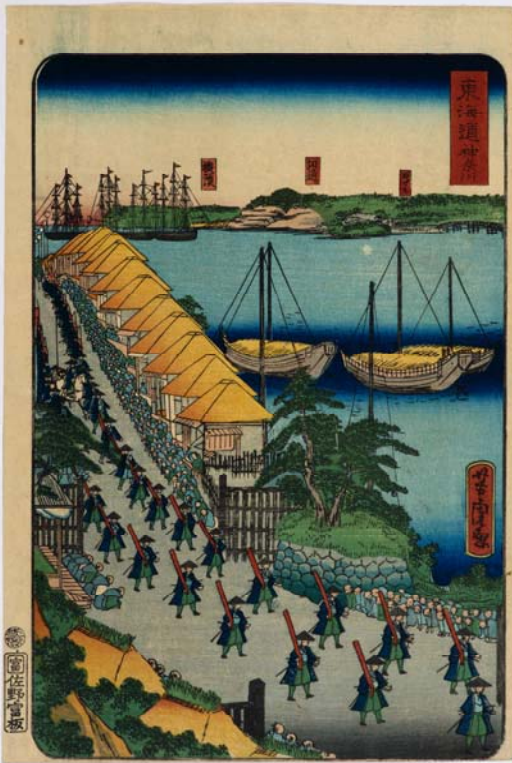
<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/library/>

2010年6月号

横浜市立図書館のデジタルアーカイブ

「都市横浜の記憶」で幕末・明治の横浜を偲ぶ

6月2日は横浜の開港記念日です。「都市横浜の記憶」から、横浜ならではの風景を描いた浮世絵を選んでみました。



「東海道神奈川」 歌川芳虎 1863

将軍上洛の行列か、神奈川台を下りて保土ヶ谷へ向かう。沿道には多くの人々が土下座し、関門も描かれている。海の先の右に横浜道の橋が架かり、石崎、野毛の切り通し、そして横浜と続き、その左に外国船が碇泊。板元の佐野富は、のちに江戸から横浜野毛に移った錦誠堂佐野屋(尾崎)富五郎店のこと。

下の左右の絵は、武蔵と相模の国境だった今の保土ヶ谷区境木付近が描かれている。

左は横浜開港前で、茶店に休む旅人や客待ちの駕籠かきの様子。右は約20年後の明治8年(1875)に出版され、大山詣の人を追い抜いて行く人力車、松の木に電線が架かるなど、文明開化の波が及んできた。左上の文は、「山の端に茶屋あり 松の生木ニ はりがね〔電線〕かかり かまくらやまの 景色よろしく」と書いてある。



「五十三次名所図会 五 程ヶ谷 境木立場鎌倉山遠望」
歌川広重(初代)1855



「東海名所改正道中記 六 境木の立場」
歌川広重(3代)1875

「都市横浜の記憶」とは

横浜中央図書館がこれまで収集してきた、横浜に関する貴重資料をデジタル化し、キーワードや年表から検索できるようにしたデータベースです。主な収録作品は、浮世絵が約400点、地図が約200点、本が約4,000点、外国人居留地を描いた銅板画や横浜の写真集などの画像、本の挿絵などの画像資料も約500点あります。資料の発行の時代は開港期から今日に至るまで、内容は幅広い範囲にわたっています。(URL:<http://memories.lib.city.yokohama.jp/cats/index.html>)

【横浜市立図書館ホームページ→「横浜を知る」をクリック→「Yokohama's Memory 都市横浜の記憶」をクリック。気軽に浮世絵を楽しみたいときは、「web展示会」がおすすめです。】